

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	特定非営利活動法人 グループホームひまわり		
所在地	長門市油谷伊上字中上り野 2238番		
電話番号	0837-32-1515	事業所番号	3591100031
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり		

訪問調査日	平成 21 年 10 月 28 日	評価確定日	平成 22 年 2 月 5 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人 非常勤 5 人 (常勤換算 7.7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
その他の費用	月額 16,500 円		
	内訳 光熱水費、日用品等		

### (4) 利用者の概要 (10月28日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護 1	2	要介護 4 2
	要介護 2	4	要介護 5
	要介護 3	1	要支援 2
年齢	平均 83.5 歳	最低 79 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 友近内科循環器科医院 歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

職員数9名、日中4名体制6時間で離職者も少なく、利用者、家族の要望に柔軟に対応出来るよう職員を確保しておられます。ケース記録、モニタリングの様式など介護記録を工夫され、ケアプランに活かされています。

### (特徴的な取組等)

近隣の地域住民とのかかわりは深く、避難訓練、花見、クリスマス会など事業所の行事へ多くの方が参加され、また、地域の方から柿もぎのお誘いや花や野菜の差し入れなどがあり、利用者が地域の一員として暮らせるような支援をすると共に、地域の方の理解に努めておられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を受けて、栄養バランスの助言を保健センターの保健師より受けたり、同業者との交流、情報交換に努めたり、重度化や終末期に向けた方針の検討を運営推進会議で意見交換するなどの改善に取り組まれています。

### (今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を再確認し、全職員で意見を出し合い、集計したものをまとめて作成しておられます。評価結果は職員会議や運営推進会議で話し合い、改善の取り組みをすると共に、日々のケアの振り返りとされています。

### (運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催され、メンバーは全利用者、家族、自治会長、民生委員、地域住民(5~6人)、市高齢障害課職員、消防署員で現状報告、行事報告、外部評価結果の報告、地域からの行事案内、重度化や終末期に向けた方針等について話し合い、サービスの質の向上に取り組んでおられます。

### (家族との連携状況)

毎月発行のホームだよりを請求書と一緒に送付するとともに、メールでも状況報告をしておられます。また、面会時や電話でも報告をしておられます。年2回家族参加のクリスマス会や花見で交流しておられます。地域の方々も参加され、連携を深めておられます。

### (地域との連携状況)

自治会に加入され、避難訓練には地域の方々も参加されています。小学生の体験学習、どんど焼き、運動会に参加しておられます。近所の寺の法話の会や社会福祉協議会の福祉まつりに貼り絵などの作品の展示、出店もされ、近隣の方々より花や野菜をいただくこともあります。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域の一員として、人権とニーズを尊重し生活の場としての環境を整え、生活の向上に努める事業所独自の理念を作り上げている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関、職員休憩室に掲示し、職員会議時に全職員で唱和し、共有に努めている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ふれあい祭り、どんど焼き、運動会等に参加して交流するとともに、社会福祉協議会の福祉まつりに作品を出品したり、小学生の体験学習を通してプレゼントを贈ったり、手紙を貰ったりしている。地蔵参りや八幡宮参りの途中での挨拶や交流をしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義等を説明し、自己評価のひとつひとつに意見を出し合い、まとめて作成している。評価結果は職員会議や運営推進会議で話し合い、改善に取り組むとともに、日々のケアの振り返りとしている。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>定期的に関催し、自治会長、民生委員、消防署員、地域住民、利用者、家族、高齢障害課職員のメンバーで外部評価の報告、利用者の状況報告、重度化やターミナルについての話し合いをして、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課と相談や情報交換をしている。社会福祉協議会と情報交換や交流をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践する為の体制</b>			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホームだよりと請求書を送付し、訪問時の報告やメールや電話での連絡をしている。年2回の家族会の花見やクリスマス会で交流をするとともに、意見や要望を聞いている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議や家族が参加する行事、来訪時に意見等を聞くとともに、外部機関も明示して運営に反映させるよう努めているが、第三者委員の選任や苦情処理の手続きの明確化はされていない。	・第三者委員の選任 ・苦情処理の手続きの明確化
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員9名で、日中4名体制6時間で利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できるよう勤務調整をしている。職員の病欠等に対しては公休出勤で対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はなく、離職は最小限に抑える努力をしている。離職がやむを得ない場合は利用者のダメージを防ぐため、日勤1週間程度、夜勤は1ヶ月後より等の重複期間を取っている。	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は段階的に全職員が参加する体制で、出張手当対応等職員が研修を受けやすい支援をしている。定期的に事業所内研修や復命研修を実施し、働きながらのトレーニングを進めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、ブロック研修会で研修や交流をするとともに、8ヶ所の他のグループホームと情報交換、交流、訪問等でサービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と一緒に見学をしてもらったり、病院などに出向いて顔馴染みになるなどの工夫をして、利用してもらうようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	梅干し漬け、魚のさばき方、皮むき等利用者から教えてもらう場面もあり、料理がおいしいと利用者から感謝の言葉がかけられるなど一緒に過ごしながら利用者から学んだり、支え合う関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の聞き取りや日々の関わりの中での希望や状況等をケース記録や連絡帳に記載し共有して、本人本位に検討していくように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回のカンファレンスで、ケース記録や連絡帳での本人の意向や希望の確認をし担当者の意見を反映させるとともに、家族の希望も聞いて介護計画を作成している。	
17 (42)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヶ月毎に見直しを行っている。1ヶ月毎にモニタリングをし、変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診、ふるさと訪問、特別な外出の支援(墓参り、買い物)など柔軟に対応し支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院介助を協力して行うとともに、適切な医療を受けられるよう支援して、互いに情報の伝達をしている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	運営推進会議や家族と検討して、事業所が出来ること、出来ないところを話し合い、現時点ではターミナルは難しく、段階的に医師、家族などで急変時の対応が出来るよう話し合っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう、施設長、管理者が指導するとともに、職員は理解、共有している。書類等は見えない場所に保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や利用者の思いを大切にして、食事の時間、就寝、起床の時間や美容院に行きたい日など、一人ひとりのペースを大切に支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、食事、後片付けなど一人ひとりの力を活かしながら、三食調理して、同じ物を一緒に食べている。採ってきた野菜が食卓にあがるなど工夫して食事を楽しむことができるよう支援している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴でき、入浴したい日、好きな時間に入浴できる支援をしている。時間帯は13:30～16:00で、入浴を嫌がる場合には声かけの工夫やホットキャビンで温めての清拭などを行っている。シャワー浴等の対応もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物、針仕事、詩吟、ぬり絵、俳句、貼り絵、歌、ゴミ箱作り、芋掘り、法話、ドライブ、畑仕事などの楽しみごとや気晴らしの支援や、皮むき、梅干し漬けなど経験や知恵を発揮する場面を作っている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の天気や利用者の状態や希望、季節や地域のその時の状況に応じて外出を楽しめるよう、買い物、散歩、四季の花見、梨狩り、寺参り、ドライブ(遠出)など戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、全職員は身体拘束によって受ける弊害について理解し、拘束のないケアをしている。スピーチロックには特に気をつけて指導し、共有している。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を職員は理解し、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく一緒について行くなど、安全面に気をつけて自由な暮らしを支えるようにしている。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書、事故報告書を整理し、防止策、対応策の検討をして一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、職員は応急手当の研修を実施しているが、定期的な自主訓練は実施に至っておらず、夜間時の応急手当、連絡、対応についても不十分である。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回夜間想定を含んだ避難、火災訓練(消火器使用)、通報連絡訓練、避難場所の確認等を実施し、防災マニュアルを作成している。避難通路図を廊下に掲示して共有し、地域の協力体制もある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は各ケース記録にファイルし、全職員が目的、副作用等を共有し理解して、服薬は手渡しし、確認している。配薬の確認も3回するなど誤薬のないようにしている。必要な情報や状況に変化がある時には、医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	起床時のうがいや毎食後の声かけや見守りで一人ひとりに応じた支援をしている。全利用者が義歯なので義歯の手入れの指導を受け、歯ブラシの清掃や消毒、義歯の保管の支援をしている。口腔ケアのマニュアルを作成し、研修の受講者もあり、清潔保管に努めている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量のおおまかな把握、栄養のバランス、カロリー等は保健センターの保健師の指導を受け、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを整備し、手洗い、うがいの励行、ペーパータオルの使用、手すりの消毒、(1日1回)、トイレの清掃(1日2回)等で予防に努めるとともに、近隣の総合病院より研修案内や情報提供を受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ガラス張りで見えた中庭で四方は明るく、玄関の生け花、廊下の壁には利用者の写真や貼り絵の作品など、楽しい雰囲気を持つ工夫がされている。台所の調理の音や匂い、食卓での笑い声など生活観が感じられ、畳の間のスペースやソファで一人ひとりの居場所があり、中庭の植物や窓から見える木々で季節も感じることができる。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、衣装ケース、ぬいぐるみ、時計、家族の写真、椅子、のれん、貼り絵作品など、利用者の使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	特定非営利活動法人グループホームひまわり
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238番
電話番号	0837-32-1515
開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 月 日現在 )

ユニットの名称	(NPO)グループホームひまわり					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの 利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
	要介護 1	3		要介護 4	2	
	要介護 2	3		要介護 5		
	要介護 3	1		要支援 2		
年齢構成	平均	83 歳	最低	79 歳	最高	88 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員にて考え意見を出し合い集計をとり記入する。
評価確定日	平成 21 年 9 月 20 日

## 【サービスの特徴】

自然に囲まれ季節の変化を体感しながら暮らすことの潤い。家庭的な環境の中で過すことの豊かさ、広い家庭菜園に季節の野菜など出来る力、分かる力を出し合いながら何でもしてしらうのではなく自分で出来ることは出来る限りやってもらいながらお互いに支えあいの生活を心掛けています。収穫した材料と一緒に食事を作ったり食べたり一緒に生活する中で、お互いが当たり前前の生活感覚を共有しています。周りには神社、小学校、お寺など思い出がある地域で暮らして行くことの潤いや豊かさは、地域を離れてしまったらもう得られないものであり身体の中にしみこんでいる文化とか風土、風習など地域との関わりを持ちながら一人ひとりの方に対し、今何が必要かその方らしく過ごすにはどうすべきかを常に考えながら日々の援助を心掛けています。地元、金子みすゞさんの「みんなちがってみんないい」利用者さんと職員の合言葉になっています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		認知症ケアの啓発や地域の方から気軽に相談など受け入れられるよう取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員と共に行い外部評価の結果は、職員会議などで報告し改善に向け取り組んでいる。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議ではホーム内、入居者の状況報告し各出席者の方々に意見を頂きサービスに結びつけるように努めている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議等の出席で情報を得たりアドバイスを願うなど関係作りをしている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	成年後見が必要なケースは現在まで無いがここに学修している人もいる。	地域が主催する研修など参加していきたい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での虐待については常に注意を払い防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をとり利用料金、ケア方針等の説明を行い理解、納得を図っている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議には利用者も全員出席しており利用者からの意見は真摯に受け止めている。また様々な角度により検討している。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の訪問時には日頃の様子を報告し月に1度近状報告、場合によっては電話で報告を行っている。また個別にインターネットで観覧できるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		ご家族には、来訪時や近状報告で意見など頂ける様にしている。また相談苦情を受け付ける窓口も明示している。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		日々の申し送りや職員会議、個別面談で要望など聞くように努めている。
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		必要な時に必要な職員の確保が出来るよう調整に努めている。
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		顔なじみの職員によるケアを心掛けており利用者のダメージを防ぐことは常に考えている。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		定期的な事業所内の研修を行い、その他の研修に関しても職員、パートに関係なく参加している。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		多様な職員配置に心掛けている。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		事業者見学などで交流を保ちサービスの質の向上に繋がっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		早急な対応が必要な相談者には、他機関と連携しながら他のサービス機会に繋げていく努力は常にしている。
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		日常生活の中でもここのできる力、分かる力を把握しその方に合った出番を見極め生活に潤いを持っていただく努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		アルバムを一緒に見ながらお話をすると 思い出話に笑顔が膨らみます。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃より本人の思いの把握に努めている。生活に変化が生じた時や意思疎通の困難な方には家族の思い意見を聞きミーティングを行っている。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人に変化が生じた場合、検討し見直しを行っている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録に日常の様子を細かく記入している。情報の共有については連絡帳にて全職員に伝わるようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて通院の必要な支援は柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの協力を呼びかけたり普段より消防署との連携を取っている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	施設見学や地元小学校の体験的学習やボランティアなど積極的に受け入れている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	送迎付き美容院の利用	必要となった時のために地域の介護支援専門員や事業所とのかかわりも日頃より大切にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		事業所内で解決できない問題が生じた場合、地域包括センターと協働し支援につなげたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		認知症に詳しい医師へ職員が相談できる環境にしたい。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		個別に具体的に検討準備を行って行きたい。また事業所が出来る事、出来ない事を確認していきたい。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		嚥下障害の方には、ソフト食、トロミ、刻み食、おかゆなど個別に準備している。
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		なるべく薬に頼らず、牛乳、ヨーグルト、バナナ等を勧め自然排便に心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望者には、毎日入浴できる環境である。時間帯においては13時30分開始で対応している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	就寝、起床時間などその方のペースに合わせて支援している。昼食後ほどソファや和室でゆっくりして頂いたりテレビ鑑賞されたりその時の状況に合わせて休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	御法話、貼り絵教室、ドライブ、畑作業などいろいろな場面で楽しんだり役割もあり気晴らしにも繋がっている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族から預かり必要に応じて使えるよう支援しているが、希望される方はお金を所持して安心されるよう支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	戸外へ散歩に出掛けたり希望時は地元スーパーなどへ買物支援を行っている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節ごとの職員が計画をたてて外出する機会を作っている。家族の面会時に一緒に外出を楽しんで頂いている。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたいと言われる方は、使用して頂いており家族より本人にかけてもらうなどして電話での会話を楽しんで頂いている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	和室や居室でお茶を飲みながら気兼ねなくゆっくりと楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望に応じて満足していただけるよう対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		定期的な自主訓練を行って行きたい。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を頂き避難訓練、火災訓練を実施、地域の協力もある。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	しっかりと説明し対応などに付いても家族には、その都度お話し理解していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックと小さな変化を見逃さないように努めている。変化に気付いた際は協力医院に報告、対処に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとり薬について理解し、飲み忘れがないよう見守り確認している。薬の変更があった場合、様子観察に努めている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	繊維の多いものを心掛け、食事面では乳製品やバナナを勧め十分な水分補給を促している。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、起床後、口腔ケアを行い、必要に応じてポリデントを使用し職員が消毒し管理している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じ量を加減している。水分補給量のチェックをし足りない時は味を変えて勧める。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	予防接種に努めている。毎年、本人家族に同意を頂き職員が付添いインフルエンザ予防接種を受けている。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理に努めている。食材の買出しは毎日行きホームで収穫した野菜を使用したり新鮮で安全な食材使用に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口付近には季節の花を植え腰掛けできるようにベンチを置き玄関には入居者が季節の花を生けたり心やすげるようにしている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	家事で伝わる生活の音が聞こえホール横の吹き抜け部分で季節感や水槽の中で泳いでいる金魚に目を細めながら安らぎのある居心地よい雰囲気作りに努めている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになれる場所としては居室のみ居場所作りとして、空いたスペースにはソファを置いたり畳の敷物が工夫されている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れたものや好みのものを生活スタイルに合わせ用意し居心地よく過ごせるよう工夫している。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日は、窓を開け風通しをよくし換気に心掛けている。温度調整も利用者の状態に応じ温度差がないよう気配りを行っている。	毎日、室温、湿度のチェックしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	利用者の身体機能に応じて安全に生活が送れるか見直している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の生活の中で混乱を招くもの環境に対して原因であるものを取り除くなど工夫している。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり畑のスペースを確保、利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらい ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	○ 毎日ある たまにある	○ 数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	○ ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらい	○ 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	○ ほぼ毎日のように たまに	○ 数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○ 大いに増えている あまり増えていない	○ 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	○ ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらい	○ 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらい	○ 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらい	○ 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない